

# 全国介護保険担当課長会議資料

平成13年9月28日（金）

厚生労働省老健局

資料No. 1	介護保険制度の最近の動きについて	
	Ⅰ 今後の主な日程(案)……………	1
	Ⅱ 介護保険制度の実施状況……………	2
	Ⅲ 定点市町村における調査結果の概要……………	4
資料No. 2	介護保険制度の運営について	
	Ⅰ 10月からの保険料の本来額徴収等について……………	16
	Ⅱ 運営基準等Q & A(案)について……………	62
	Ⅲ いわゆる介護タクシーの実態調査について……………	66
	Ⅳ 要介護認定について……………	70
資料No. 3	介護サービスの質の向上への取組み等について	
	Ⅰ 身体拘束ゼロ作戦の推進状況について……………	85
	Ⅱ 在宅介護支援センター運営事業について……………	87
	Ⅲ 痴呆介護研修事業について……………	89
	Ⅳ ケアマネジャー支援策について……………	91
	Ⅴ 福祉用具・住宅改修の活用について……………	130
資料No. 4	第2期介護保険事業計画等について	
	Ⅰ 第2期介護保険事業計画等の作成の基本的な考え方及び 今後のスケジュールについて……………	133
	Ⅱ 介護保険事業に係る保険給付の円滑な実施を確保する ための基本的な指針(基本指針)の改正の方向性について…	140
	Ⅲ 介護保険給付の将来推計(ワークシート)について……………	147
	Ⅳ 介護サービス利用意向調査について……………	154
	Ⅴ 介護保険事業計画Q & A……………	161
資料No. 5	施設整備の考え方について	
	Ⅰ 新型特別養護老人ホーム(全室個室・ユニット化)……………	163
	Ⅱ 国庫補助額算定方法の簡素・合理化等について……………	168
	Ⅲ 特別養護老人ホームに係る社会福祉・医療事業団融資 について……………	180
	Ⅳ 介護老人保健施設等保健衛生施設の整備方針……………	181
	Ⅴ 今後のケアハウスの整備の在り方等について……………	182

資料No. 6	指導監査を巡る最近の動きについて	
	Ⅰ 最近における主な指定取消等事例について……………	188
	Ⅱ 介護報酬の不正請求防止への取組状況について……………	195
参考資料1	平成14年度老人保健福祉関係予算概算要求の概要……………	197
参考資料2	介護保険指定事業所等の指定状況	
	Ⅰ 指定事業所の指定状況……………	203
	Ⅱ 介護保険施設の指定状況……………	204

## 介護保険制度の最近の動きについて

I	今後の主な日程(案).....	1
II	介護保険制度の実施状況.....	2
III	定点市町村における調査結果の概要	
(1)	平成12年度第1号保険料の収納状況について.....	4
(2)	利用者アンケート調査の集計結果.....	5
(3)	所得段階と給付状況の関連分析.....	11

# I 今後の主な日程（案）

	主な日程
<b>平成 13 年度</b> 10～12 月	○社会保障審議会介護給付費分科会立ち上げ ○介護保険経営概況調査実施 ○11 月 11 日 介護支援専門員実務研修受講試験 ○要介護認定に関する調査実施
(平成 14 年) 1 月～3 月	○支給限度基準額の一本化（訪問通所サービスと短期入所サービス） ○介護保険事業計画、老人保健福祉計画作成のための基本的考え方の提示 ○介護サービス量の見込みワークシートの提示 ○「給付分析ソフト（改定版）」の配布
<b>平成 14 年度</b> 4～6 月	○介護保険事業計画策定のための基本指針の改正告示 ○介護保険経営概況調査結果の公表 ○認定ソフト（改訂版）試行事業開始（～平成 15 年 3 月） ○市町村、都道府県、サービス量等（中間値）の見込み等とりまとめ
7～9 月	
10～12 月	○市町村、都道府県、サービス量等（最終値）の見込み等とりまとめ ↓ ○ゴールドプラン 21 の見直し（サービス量等（最終値）の公表）
(平成 15 年) 1 月～3 月	○市町村、介護保険事業計画の策定 ○都道府県、介護保険支援事業計画の策定
<b>平成 15 年度</b>	○介護報酬改定 ○見直し後のゴールドプラン 21 の開始 ○認定ソフト（改訂版）の使用開始

## Ⅱ 介護保険制度の実施状況

### Ⅰ. 要介護認定

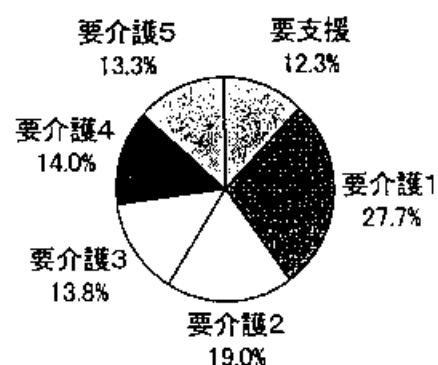
#### 1. 被保険者数

- 第1号被保険者（65歳以上） 2, 256万人（13年6月末）
- 第2号被保険者（40～64歳の医療保険加入者） 4, 286万人（13年度見込）

#### 2. 要支援・要介護認定者数

- 要支援・要介護者数 268万人（13年6月末）  
（うち65歳以上 258万人（被保険者の11.4%））

・ 要支援	32.9万人
・ 要介護1	74.1万人
・ 要介護2	50.7万人
・ 要介護3	36.8万人
・ 要介護4	37.5万人
・ 要介護5	35.5万人



### Ⅱ. サービス利用の状況

#### 1. サービスの利用者数

- 居宅介護（支援）サービス受給者数 142万人
- 施設介護サービス受給者数 65万人
  - （特別養護老人ホーム 30万人）
  - （介護老人保健施設 24万人）
  - （療養病床等 11万人）

※ 13年6月報告分（13年4月サービス分）

## 2. 介護給付費の推移（支払状況暫定集計値）

- 福祉用具購入費など市町村が直接支払う費用を含む平成12年度の給付実績は、予算の85%強であり、平成13年3月以降の各月の国保連の支払実績は、予算の9割を超える水準となっている。

### 〔国保連における支払状況〕

（単位：億円）

サービス提供月	4月分	6月分	8月分	10月分	12月分	2月分	3月分	4月分	5月分	6月分
在宅サービス	600	960	1,020	1,060	1,040	1,020	1,130	1,130	1,220	1,230
施設サービス	1,540	1,980	2,030	2,040	2,040	1,870	2,070	2,000	2,090	2,020
合 計	2,140 (2,170)	2,940 (2,980)	3,050 (2,990)	3,100 (3,040)	3,080 (3,020)	2,900 (3,140)	3,210 (3,140)	3,130 (3,170)	3,310 (3,240)	3,260 (3,300)

（注1）各国保連の支払実績として1割の利用者負担を除く介護給付費（9割分）を集計したもの。

（注2）福祉用具購入費、住宅改修費など市町村が直接支払う費用は除く。

（注3）合計欄の下段の括弧書きは、各月の日数（30、4日）で補正したもの。

## 3. 介護サービス事業者の参入状況

- 在宅サービス事業者の参入は12年4月の施行後も進んでおり、全国的にみたサービス事業所の総数は増加している。

施行当初は、一部の民間事業者にサービス拠点を削減する動きもあったが、施行後1年以上を経過し、こうした事業者の運営も軌道に乗ってきたものと見られる。

	12年4月	13年9月
訪問介護	9,185件	14,008件(53%増)
通所介護	5,621件	9,266件(65%増)
居宅介護支援	19,466件	22,688件(17%増)

（注）WAM-NET掲載ベースの12年4月1日、13年9月1日の比較

### Ⅲ 定点市町村における調査結果の概要

(1) 平成12年度 第1号保険料の収納状況について  
 [調査対象] 定点市町村 (112 市町村) [調査時期] 平成13年8月

#### 1. 12年度における収納率

	特別徴収と 普通徴収の合計	普通徴収のみ
合 計 (107 市町村)	98.6%	92.8%

※ 金額ベースでの加重平均 (回答市町村の収納額合計÷調定額合計)

参考：市町村ごとの収納率の単純平均

合 計 (107 市町村)	99.1%	94.6%
------------------	-------	-------

参考：前回調査の結果 (10月調定分の12月末までの状況・単純平均)

合 計 (76 市町村)	98.9%	91.2%
-----------------	-------	-------

#### 2. 規模別収納率

①5,000人未満 (37 市町村)	99.4%	95.7%
②5,000人以上 30,000人未満 (35 市町村)	99.2%	95.1%
③30,000人以上 (35 市町村)	98.5%	92.5%

※ 金額ベースでの加重平均 (回答市町村の収納額合計÷調定額合計)

#### 3. 普通徴収における口座振替の割合

平均42.4% (105 市町村)

(参考：前回調査 (13年1月) の結果 40.6% (76 市町村))



(2) 利用者アンケート調査の集計結果  
(13/08/27 までに当方へ送付された分)

0. 利用者の属性

(1) 保険者

宮城県栗駒町、埼玉県さいたま市、三重県四日市市、愛媛県松前町、  
長崎県西彼杵広域連合の5保険者

(2) 利用者の内訳

	回答者数
計	265
A: 13年5月利用者(12年4月以降の新規利用者)	61
B: 13年5月利用者(12年3月以前からの継続利用者)	142
C: 要介護認定は受けているが12年4月以降未利用の者	62

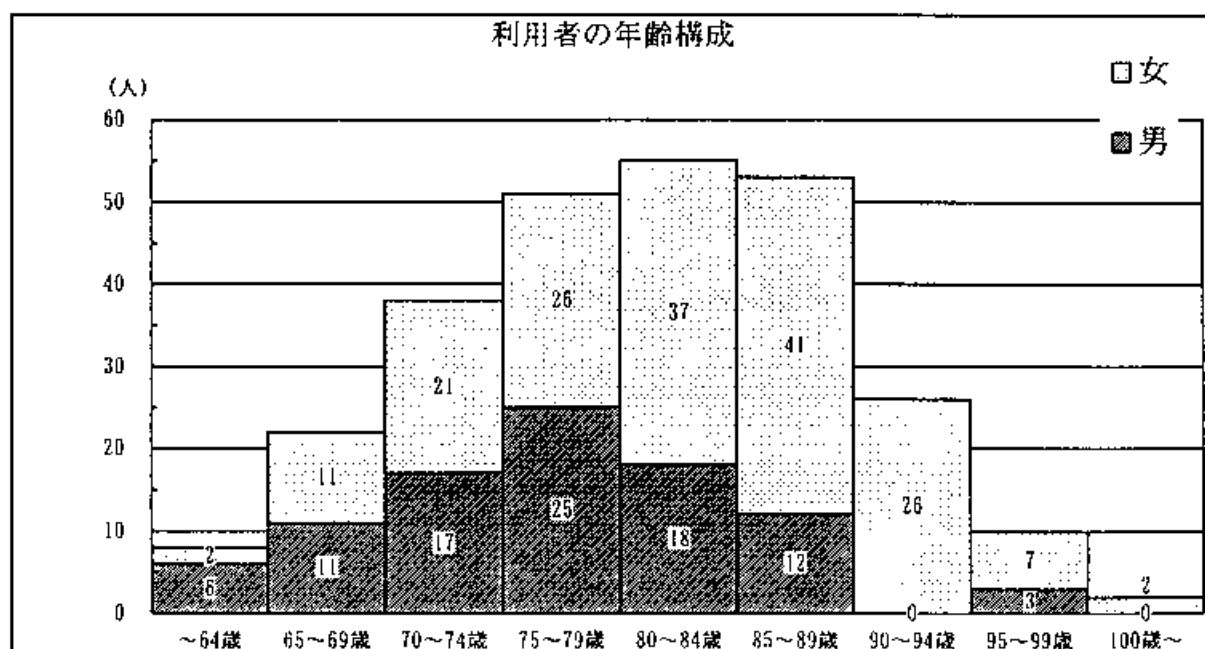
(3) 利用者の年齢構成

○人数

	計	～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90～94歳	95～99歳	100歳～
計	265	8	22	38	51	55	53	26	10	2
男	92	6	11	17	25	18	12	0	3	0
女	173	2	11	21	26	37	41	26	7	2

○割合

計	100%	3%	8%	14%	19%	21%	20%	10%	4%	1%
男	35%	2%	4%	6%	9%	7%	5%	0%	1%	0%
女	65%	1%	4%	8%	10%	14%	15%	10%	3%	1%



# 1. 現在利用しているサービスに対する満足度

現在利用しているサービス全体としては、「満足」と「ほぼ満足」を合わせ、量及び質ともに、9割近くの者がおおむね満足と回答している。

表1. 現在利用しているサービスの量に対する満足度（サービス全体）

	計	満足	ほぼ満足	どちらとも いえない	やや不満	不満	使っていない	不詳
計	203	74	102	10	7	2	1	7
A(新規利用者)	61	18	36	4	2	0	0	1
B(継続利用者)	142	56	66	6	5	2	1	6

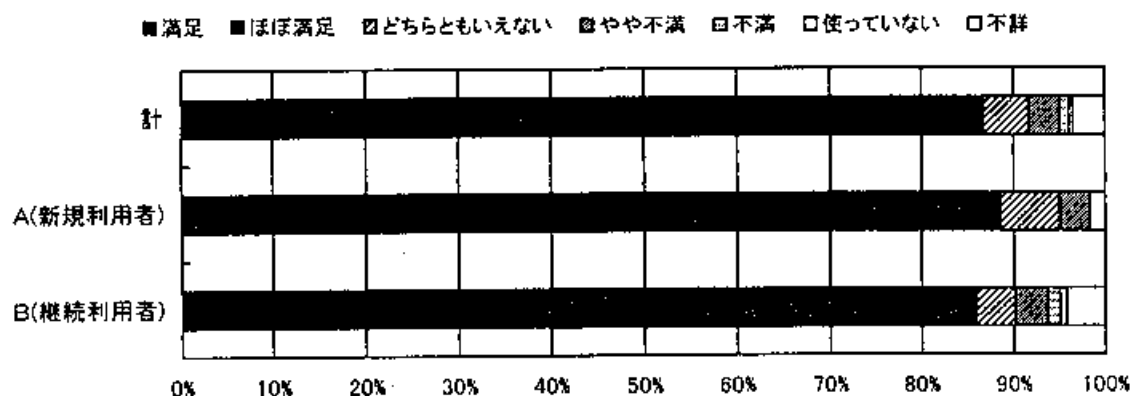
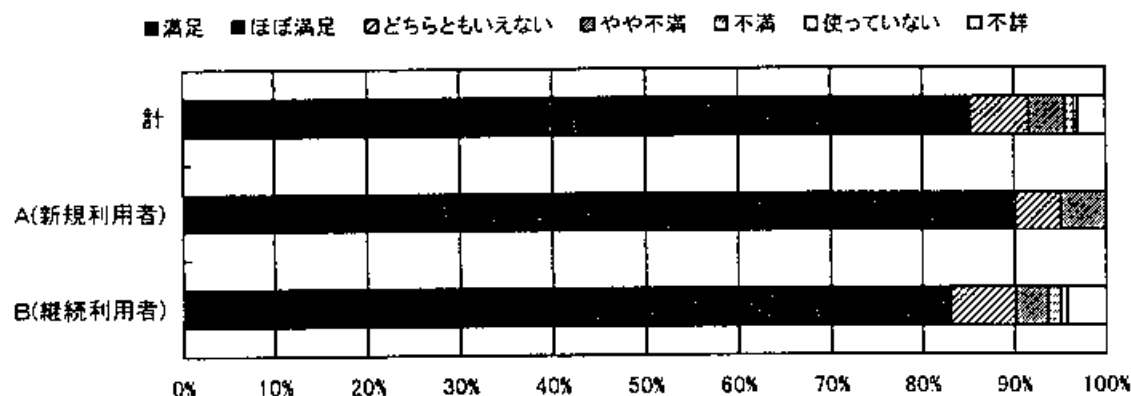


表2. 現在利用しているサービスの質に対する満足度（サービス全体）

	計	満足	ほぼ満足	どちらとも いえない	やや不満	不満	使っていない	不詳
計	203	80	93	13	8	2	1	6
A(新規利用者)	61	17	38	3	3	0	0	0
B(継続利用者)	142	63	55	10	5	2	1	6



## 2. 保険料及び利用料の負担感

保険料の負担感は、過半数の者が「妥当」と回答している。  
 利用料の負担感は、6割以上の者が「妥当」と回答している。

表3. 保険料の負担感

	計	高い	やや高い	妥当	やや安い	安い	不詳
計	265	40	51	142	0	5	27
A(新規利用者)	61	5	9	43	0	3	1
B(継続利用者)	142	18	36	68	0	2	18
C(未利用者)	62	17	6	31	0	0	8

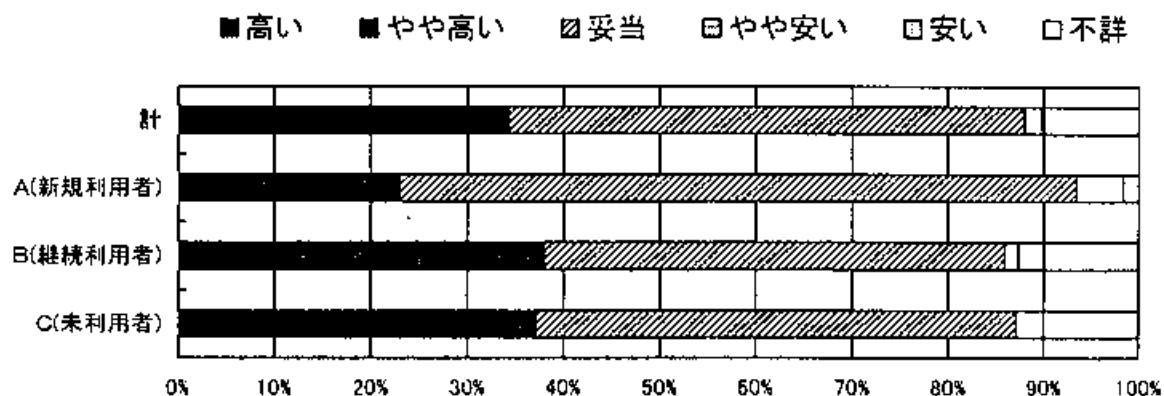
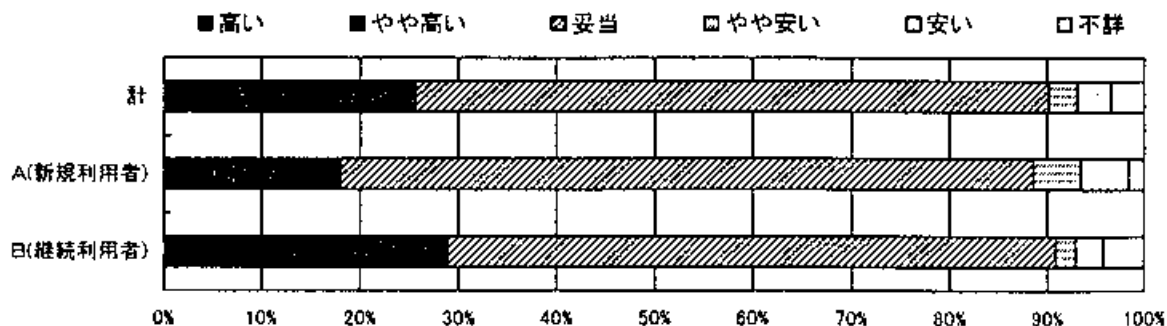


表4. 利用料の負担感

	計	高い	やや高い	妥当	やや安い	安い	不詳
計	203	15	37	131	6	7	7
A(新規利用者)	61	3	8	43	3	3	1
B(継続利用者)	142	12	29	88	3	4	6



### 3. サービスを使わない理由

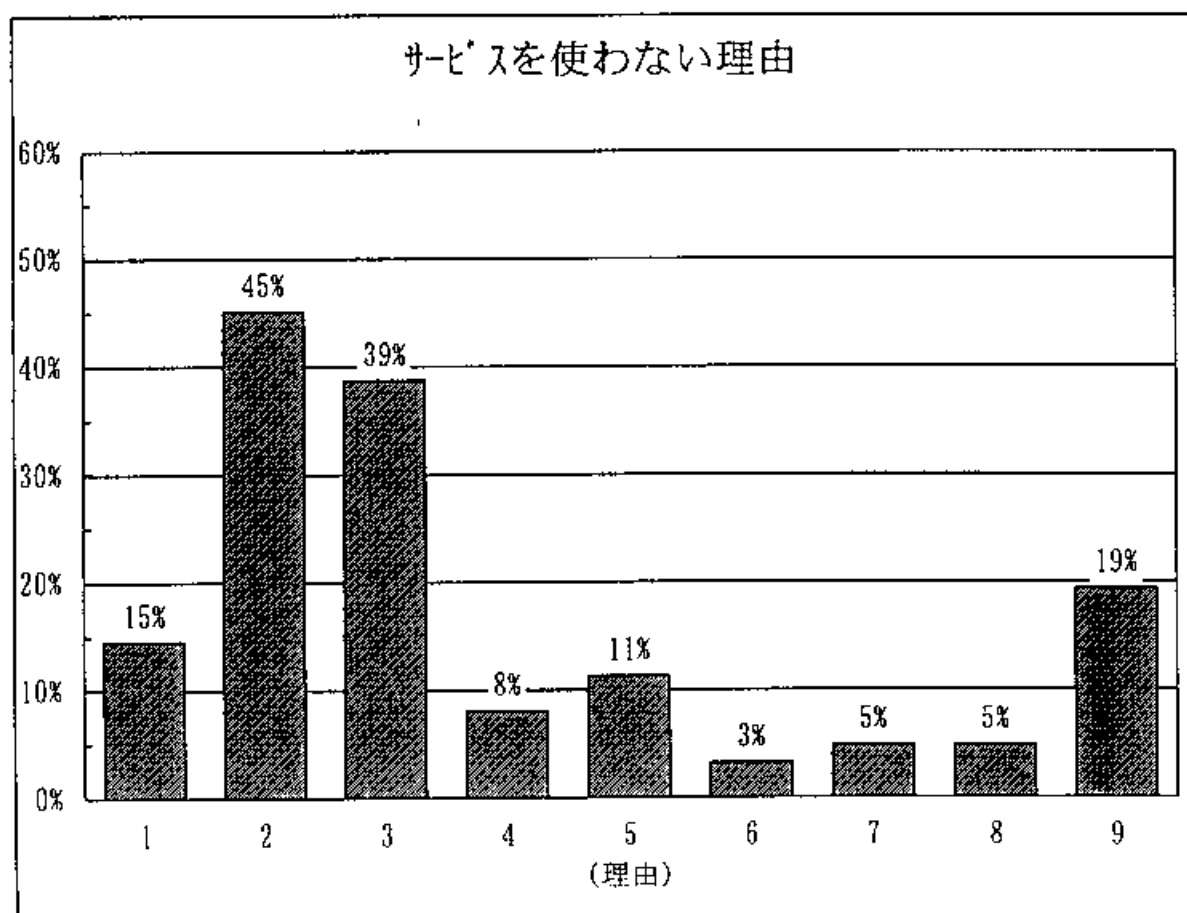
サービスを使わない理由としては、「今のところ家族介護でなんとかやっていける」あるいは「今のところ自分でなんとか出来る」という回答が多い。

表5. サービスを使わない理由（複数回答可）

総数	理由								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
62	9	28	24	5	7	2	3	3	12
割合	15%	45%	39%	8%	11%	3%	5%	5%	19%

(理由)

1. 病院に入院している
2. 今のところ家族介護で何とかやっていける
3. 今のところ自分で何とか出来る
4. 他人を自宅に入れたくない
5. 外出したり、他人と関わりたくない
6. 利用したいサービスがない
7. どのようなサービスがあるのか分からない
8. 利用者負担（総費用の1割）が払えない
9. その他



#### 4. 今後のサービス利用について

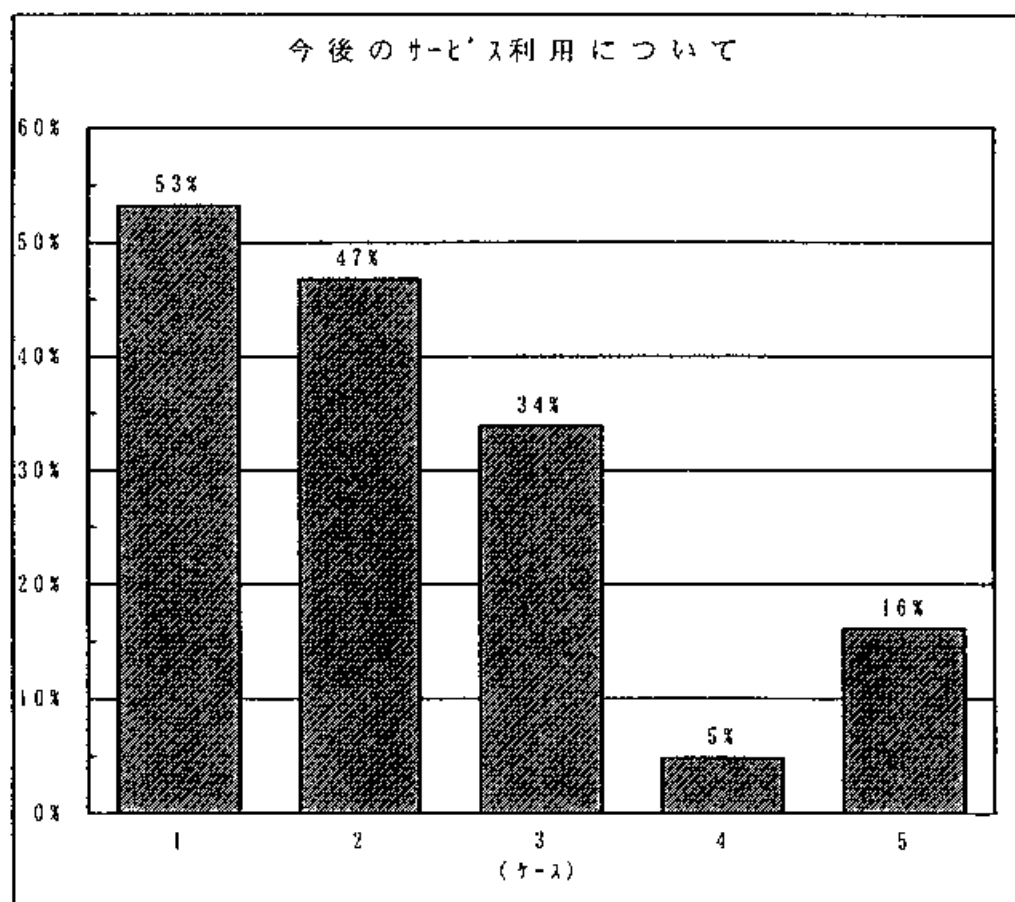
現在サービスを利用していない者では、本人の要介護度が悪化したり、介護者の体力が低下した場合にサービスの利用を考えるという回答が多い。

表 6. 今後のサービス利用について（複数回答可）

総数	ケース				
	1	2	3	4	5
62	33	29	21	3	10
割合	53%	47%	34%	5%	16%

（ケース）

1. 要介護度が現在よりも悪化したら利用を考える
2. 介護者の体力が低下したら利用を考える
3. 緊急時には利用を考える
4. 将来的にも利用を考えることはない
5. その他



## 5. 現在の制度に対する評価

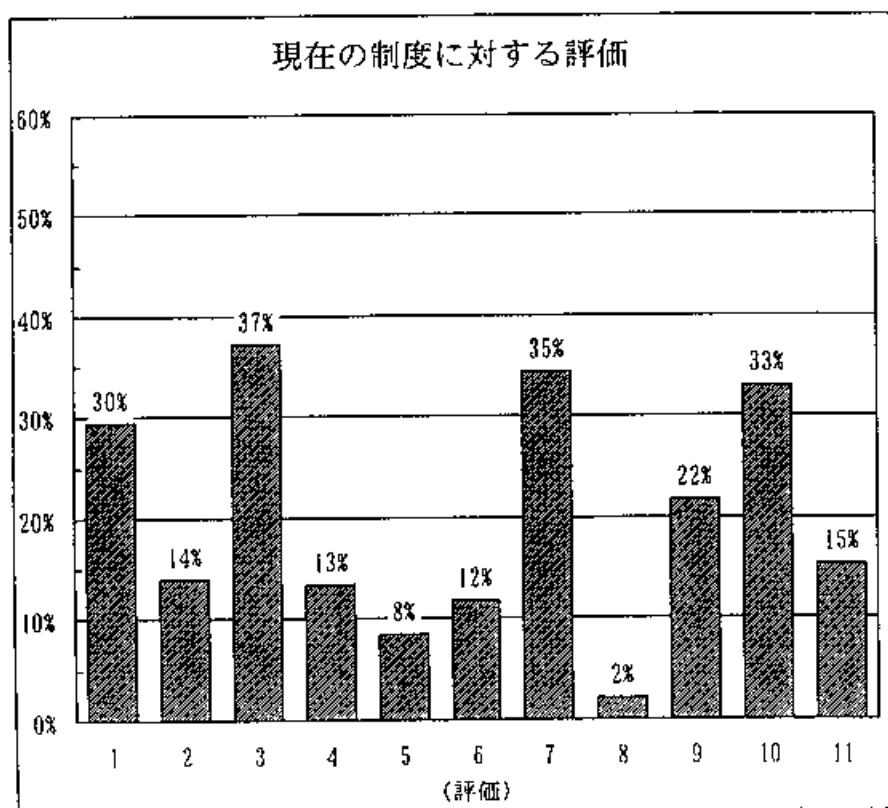
12年4月以前からサービスを利用していた者の現在の制度に対する評価では、「家族の介護負担が軽くなった」、「気兼ねなく利用できるようになった」、「(ケアマネジャー等に) 要求・苦情を言いやすくなった」という回答が多い。

表7. 現在の制度に対する評価（複数回答可）

総数	評価										
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
142	42	20	53	19	12	17	49	3	31	47	22
割合	30%	14%	37%	13%	8%	12%	35%	2%	22%	33%	15%

（評価）

1. 自分にあったサービスを利用することが出来るようになった
2. 自宅で生活が続けることが可能になった
3. 家族の介護負担が軽くなった
4. 業者を選ぶことが出来るようになった
5. サービスの質がよかった
6. サービスのメニューが豊富になった
7. 気兼ねなく利用できるようになった
8. 利用者負担が減った
9. 相談窓口がひとつになり、相談しやすくなった
10. (ケアマネジャー等に) 要求・苦情を言いやすくなった
11. その他



### (3) 所得段階と給付状況の関連分析

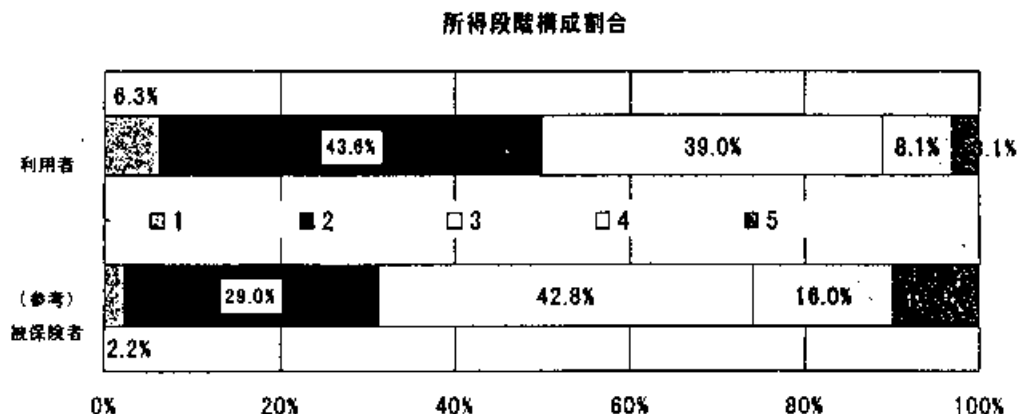
#### 1. 集計の概要

- ・ 利用者単位で所得段階(第1号保険料の段階)と介護保険給付状況(13年5月)との関連をみたもの。
- ・ 集計対象は利用実績があり、かつ、所得段階が判明しているもののみとした。そのため、第2号被保険者は集計対象としていない。また、第6段階該当者は少数であったため、集計の便宜上、第5段階として集計した。
- ・ 利用状況は介護保険事業実績分析ソフトによる出力を利用しているため、当該ソフトの稼働が不可能な非常に大規模な保険者は集計対象となっていない。
- ・ 42保険者、約8万1千人(8月30日現在)の利用者データを集計した。

#### 2. 利用者の状況

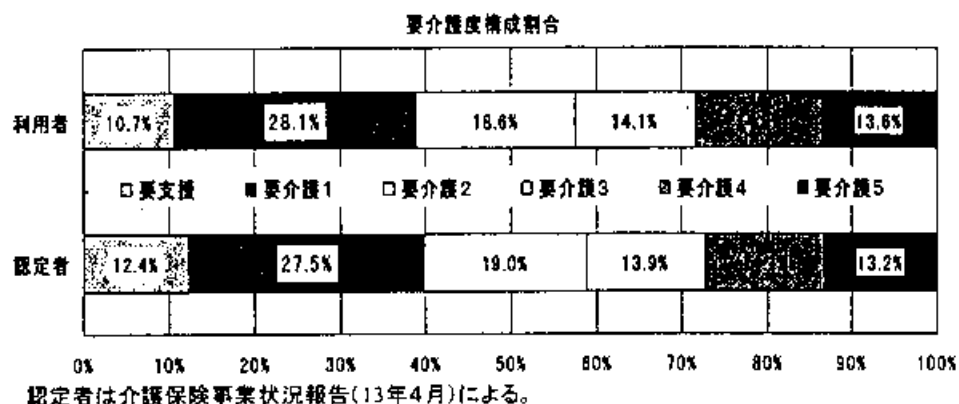
##### 2-1 所得段階

- ・ 利用者の所得段階をみると、被保険者に比べて第1、第2段階が多くなっている。



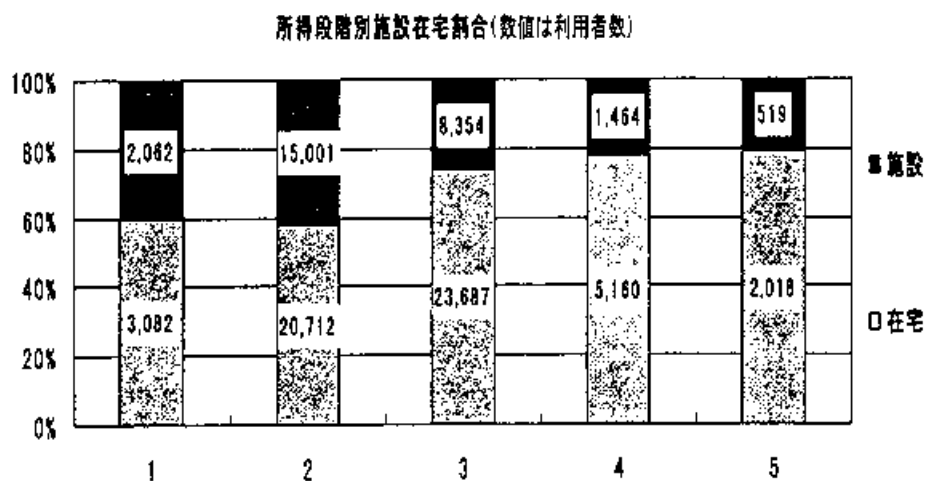
## 2-2 要介護度

- ・ 今回集計対象とした利用者の要介護度は、全国の認定者とほぼ同様の分布となっている。



## 2-3 施設在宅割合

- ・ 施設入所の割合は第1、第2段階で高くなっている。





### 3. 在宅利用者の状況

#### 3-1 所得段階別要介護度分布

- 第3段階以上に比べて第1、第2段階は要介護度の軽い者が多くなっている。



#### 3-2 限度額に対する利用割合

- 第1段階と第5段階の利用割合(=短期入所を含む利用単位数/支給限度額)が若干高い。所得段階とサービス利用割合との間には相関関係は低いと考えられる。

所得段階別利用割合

計	第1段階	第2段階	第3段階	第4段階	第5段階
43.3%	46.9%	42.6%	43.0%	44.0%	46.7%

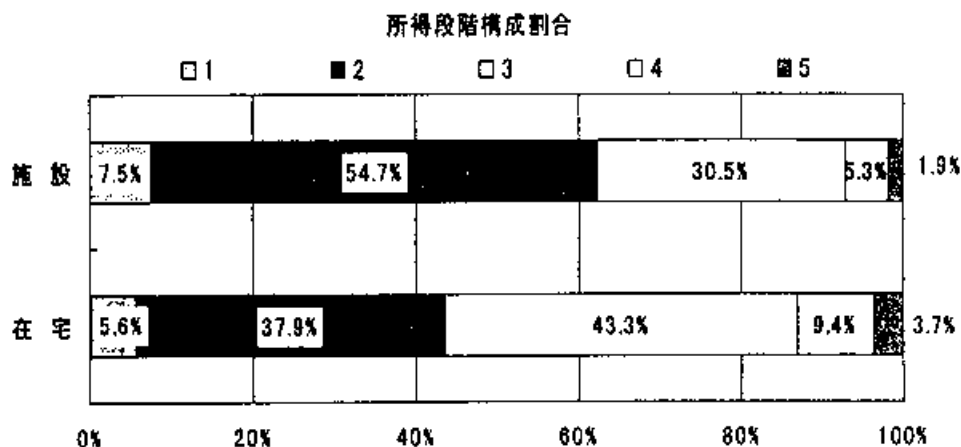
(参考)要介護度別利用割合

計	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
43.3%	52.6%	38.5%	44.2%	45.6%	44.6%	45.5%

## 4. 施設利用者の状況

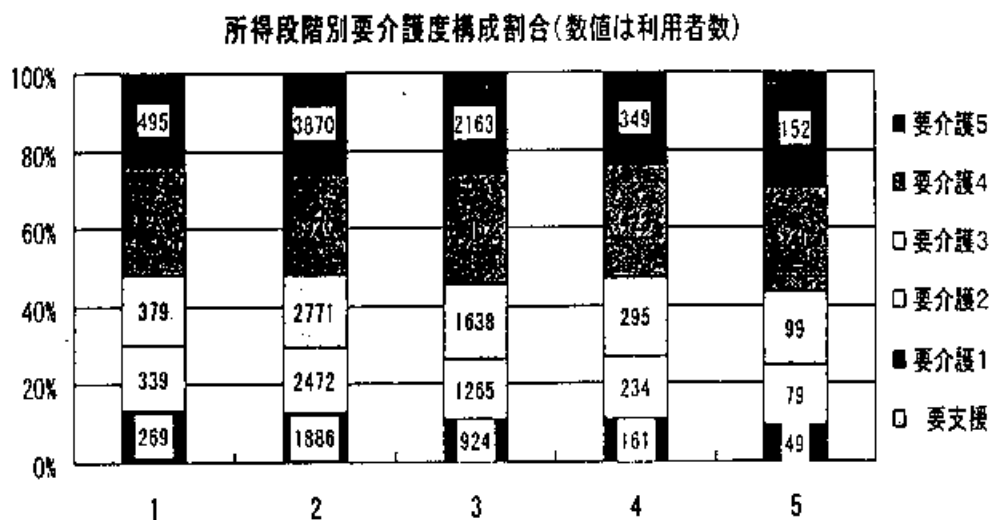
### 4-1 所得段階

- 施設利用者の所得段階をみると、施設では所得が低い者が多くなっている。



### 4-2 要介護度

- 各所得段階における要介護度分布にあまり差はみられない。



#### 4-3 施設種別一人あたり単位数

- ・ 所得段階による差はみられない。

